

『ファヴォリータ』あらすじと解説 (ドニゼッティ)

登場人物	詳細
アルフォンソ11世 (バリトン)	国王
レオノーラ (メゾソプラノ)	国王の愛人。フェルナンドと恋に落ちる
フェルナンド (テノール)	元修道士で、軍人。レオノーラと恋に落ちる
バルダッサレ (バス)	修道院長。フェルナンドと王妃の父

イネス (Sp)、ドン・ガスパロ (T) など

Q 主な舞台は、中世末期のスペインの「宮廷と修道院」です。
この時代は国王だけでなく教会にも大きな権力がありました。

【第1.2幕】

レオノーラは「国王の愛人」であるにもかかわらず、フェルナンド (修道士) を愛してしまいます。

フェルナンドは愛するレオノーラのために修道院を飛び出します。

フェルナンドは「レオノーラが身分の高い人」だと勘違いしており、彼は軍人として出世を誓います。

【第3幕】

一方、レオノーラは「自分が国王の愛人」だという事を、後ろめたさからフェルナンドに告げることができません。

フェルナンドはその事実を「二人の結婚が決まった後」に知り、激怒します。

そして、フェルナンドは修道院へと帰っていきます。

【第4幕】

修道院に瀕死のレオノーラが現れます。

二人が愛を再び確かめ合い、レオノーラが息絶えたところでオペラが終わります。

← Omio Fernando
この歌が大好き

O mio Fernando

私のフェルナンド

ドニゼッティ作曲：オペラ「ファヴォリータ（寵姫）」より：レオノーラのアリア

～G.Donizetti : Opera "La Favorita" : Aria di Leonora～

Fia	dunque	vero,	oh	ciel?
《古》sarà	いったい	本当の	おお	天・神

これは本当なの、ああ、神様！

desso...	Fernando!
《文》彼自身	フェルナンド

彼...フェルナンドが！

lo sposo	di Leonora!	Sì!
花婿	レオノーラの	そう

彼をレオノーラの花婿にですって！ああ！

Tutto	mel	dice,
全てが	me+lo : 私にそれを	dire : 言う、明らかにする

全てが私にそれを語っているのに、

e	dubbia	è	l'alma	ancora
そして	疑い	essere・3単	《詩》魂	未だに

まだ私の心は疑っているのかしら、

all'inattesa	gioia?
思いがけない	喜び

思いがけない喜びを？

Oh	Dio!	Sposarlo?
おお	神様	sposare+lo : 彼と結婚する

ああ、神様！彼と結婚せよと？

oh	mia	vergogna	estrema!
おお	私の	不名誉	甚だしい

ああ、なんという恥辱！

in	dote	al	prode
～に	持参金	～へ	勇者

勇者への持参金には

recar	il disonor,	no,	mai:
recare : 持参する	disonore : 恥辱	いいえ	決して～しない

恥辱を持参する...いいえ、決して！

dovesse	esecrarmi,	fuggir,
---------	------------	---------

私を憎み、去って行くに違いない、

dovere (接半過3単) : ~に違いない	esecrare+mi : 私を憎む	fuggire : 逃げる
-------------------------	--------------------	---------------

saprà	in brev'ora	chi	sia	la donna
sapere : 知る	短い間に	(関係代名詞)	essere (接3単)	女性

これほどに愛する女が

che	cotanto	adora.
(関係代名詞)	おおいに	adorare : 熱愛する

どんな女なのかを知ったならすぐにも。

O	mio	Fernando!
おお	私の	フェルナンド

ああ、私のフェルナンド！

della	terra	il trono	a	possederti
~の	地上	王座	~のために	possedere+ti : あなたを所有する

地上の王座は、あなたの心を得るために

avria	donato	il cor;
《古》avrei, avrebbe=avere (条1・3単)	与える	心

私に与えられていた。

Ma	puro	l'amor	mio
しかし	純粋な	愛	私の

しかし私の純粋な愛と、

come	il perdono,	dannato,	ahi	lassa!
手段	赦し	dannare (p.p.) : 呪われる	ああ	《詩》あわれ

赦し的手段とは、ああ、悲しいことに、

è	a	disperato	orror.
essere (3単)	~によって	絶望的な	恐怖

絶望的な恐怖によって呪われている。

Il ver	fia	noto,
真実	《古》sarà	周知の

真実は明らかになるでしょう、

e	in	tuo	dispregio	estremo
そして	~のうちに	あなたの	軽蔑	甚だしい

あなたのすさまじい軽蔑のうちに。

la pena	avrommi
刑罰	avere+mi : 私に起こる

私への刑罰は、

che maggior	si	de',	ah!
非常に大きい			ああ

より大きいものになる、ああ！

Se	il giusto	tuo	di	sdegno
----	-----------	-----	----	--------

もしもあなたの当然の軽蔑が

もし	正義	あなたの	～の	軽蔑
----	----	------	----	----

allor	fia	scemo,
その場合は	《古》sarà	愚かな、不十分な

piombi,	gran	Dio,
piombare・命令(敬) : 急に落とす	grande : 偉大な	神

la folgor	tua	su me.
稲妻	あなたの	私(の上)に

Su,	crudeli,
さあ	残酷な人々

e	chi	varresta?
そして	誰が	vi : それを / arrestare : 中断する

Scritto	è	in cielo	il mio dolor
scrivere (p.p.) : 書く	essere・3単	天に	私の苦惱

Su,	venite,	ell'è	una festa,
さあ	venire・命令2複	ella : 《文》それが / è : essere・3単	祝宴

sparsa	l'ara	sia	di	fior
sparsa di : ～を撒き散らした	《文》祭壇	essere・接	～で	fiore : 花

Già	la tomba	a me	s'appresta,
すでに	墓	私のために	apprestarsi : 準備をする

ricoperta	in	negro	vel
ricoperto : (再び) 覆われる	～に	暗い	velo : ヴェール

sia	la trista	fidanzata
essere・接	tristo : 邪な、不幸な	婚約者(女)

che	rejetta,	disperata,
(関係詞)	(英) reject? : 見捨てる	絶望する

non	avrà	perdono	in ciel!
～でない	avere・未3単	赦し	天において=神による

まだ十分でないならば、

降らせたまえ、神よ、

私にあなたの稲妻を。

さあ、残酷な人たち、

邪魔をするのは誰？

私の苦惱は、運命によって定められていたのよ。

さあおいでなさい、これは祝宴よ！

祭壇には花が撒かれ、

すでに墓が私のために準備されている。

暗いヴェールに覆われているのは、

邪な婚約者！

(婚約者は) 見捨てられ、絶望しても、

神の赦しを得ることは出来ないでしょう！